

## 学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	太田尾 剛
審 査 委 員		主 査 氏 名	加藤 丈司
		副 査 氏 名	古川 貴之
		副 査 氏 名	永延 清和
[論文題名]			
<p>The usefulness of plasma levels of mature and total adrenomedullin as biomarkers indicating the magnitude of surgical stress responses: A single-center, prospective, observational study</p> <p>(邦文題名 手術侵襲に対する反応の大きさを表すバイオマーカーとしての mature adrenomedullin 及び total adrenomedullin の血漿レベルに関する有用性：単一施設、前向き観察研究)</p> <p>Journal of Clinical and Translational Research 2021; 7(3): 302-310</p>			
[要 旨]			
<p>アドレノメデュリン (AM) は、多彩な生物活性を発揮する生理活性ペプチドである。ヒト血液中にも循環しており、敗血症等の炎症性疾患で血中濃度が上昇する。血中 AM には、2 種類の分子型が存在しており、一つは、C 末がアミド化された成熟型 AM (mAM) であり、もう一方は、中間型 AM である。本研究では、周術期患者の血中 mAM とトータル AM (tAM ; mAM+中間型 AM) の 2 種類を測定して、手術侵襲評価における 2 種類の血中 AM 測定の臨床的意義が検討された。測定・解析の結果、周術期における mAM および tAM の血中濃度は、Presepsin、IL-6、プロカルシトニン、白血球数、CRP と相関することが判明した。さらに、2 種類の AM の血中濃度は、SOFA スコアならびに APACHE II スコアとも有意に相関していた。</p> <p>本研究では、通常測定される tAM のみでなく、mAM の手術侵襲指標としての意義が明確になった。血中 AM の測定に関して、新たな知見が得られており、学位論文に値する研究と判断した。</p>			